

平成30年度 事務事業評価シート

(単位:千円)

事業属性	事業名(コード)	JR福知山線複線化等促進事業			110101	担当課	生活交通課	
	開始年度	昭和39(1964)	終了予定年度	平成32(2020)	作成責任者	横山 晋		
	歳出費目	款)総務費	項)総務管理費	目)交通対策費	決算附属資料	80	頁	
	施策の大綱	公共交通の最適化			関連計画等	-		
	施策名	利用しやすい鉄道機能を確保する			根拠法令等	-		
	事業区分	<input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 国府補助事業 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独事業 <input type="checkbox"/> その他 ()						
基礎情報	事業目的 (あるべき姿)	JR福知山線(篠山口駅～福知山駅間)の複線化を早期に実現し、沿線地域経済の活性化及び鉄道網の拡充による利便性の向上を図り、住民福祉の向上を図る。						
	対象者	全市民	対象者数	78,956	一人当たりコスト	0.02		
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他 <委託先・実施主体等>						
	事業概要	JR福知山線の複線化早期実現に向けて、JR福知山線沿線自治体(福知山市、丹波市、篠山市、三田市)で構成する福知山線複線化促進期成同盟会を母体に関係機関への要望や利用促進策・情報交換等を行う。						
	主な経費と 具体的内容 (H29実績)	項目		具体的な内容			H29経費	
		負担金補助及び交付金		福知山線複線化促進期成同盟会等への負担金			100	
旅費		JR本社等要望活動旅費			149			
報償費		瑞風歓迎イベント謝礼			10			
需用費		消耗品費(プリンタインク)			19			
関連事業	鉄道利用促進事業							
予算と執行の状況	区分			H28	H29	H30	H31要求	
	事業費	当初予算・・・①		323	323	347		
		補正予算・・・②		△ 15	△ 45	0		
		繰越し等・・・③		0	0	0		
	財源内訳	一般財源		308	278	347		
		国支出金		0	0	0		
		府支出金		0	0	0		
		地方債		0	0	0		
		その他特財		0	0	0		
		特定財源名称 (H29実績)					頁 頁	
	職員人件費	従事職員数(正職/嘱託)		0.12/0	0.12/0	0.12/0	/	
概算人件費・・・④		960	960	960				
総事業費(①+②+③+④)・・・⑤			1,268	1,238	1,307			
執行状況	執行額・・・⑥		308	278				
	執行率(⑥/(①+②+③)×100)		100.0%	100.0%				
業績指標	成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H28	H29	H30	最終目標	
		JR福知山市内駅平均乗客数	人/日	4,458/4,466	4,467/4,495	/4,524	4,611	
		要望採択数	件/年	2/13	3/14	/	14	
	活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H28	H29	H30	最終目標	
		要望活動実施回数	回/年	2/3	3/3	/	3	
		単位あたりコスト		154.0	92.7			
	単位あたりコスト		/	/	/			

		項目	評価	評価に対する説明
一次評価 ▽担当課による自己評価△	必要性	市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か	○	複線化や利便向上のための施設整備には乗客数の増加が絶対条件であり、すぐに成果として結びつくものではないが、継続的に取り組んでいく必要がある。
		民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か	○	
		目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	○	
	効率性	受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か	○	沿線地域と連携し一体となって要望活動、利用促進活動を展開することができ効率的である。
		他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか	○	
		コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	○	
	有効性	成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか	○	沿線地域と連携し一体となって要望活動、利用促進活動を展開することによりスケールメリットが生まれ有効に取り組むことが出来る。
		活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか	○	
		先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	○	
		目的及び指標等の達成状況に対する評価	関係自治体が連携して取り組むことで、様々な要望活動・利用促進への取り組みができ、効果的である。	
	今後の課題及び方向性	沿線関係自治体等と連携を維持し、要望活動や利用促進活動を継続的に行い、沿線の開発及び住民福祉の向上を図る。		
庁内及び外部による評価	二次評価 (庁内) 【行革担当課記入】	所 見		
		<ul style="list-style-type: none"> ・本事業をもとに関係市町村と連携しながら要望活動等を長期継続的に行い、特急の本数増加などの成果をあげている点は評価できる。 ・現在の状況から考えると本事業の根本である複線化は難しうなので、その点だけに特化せず、引き続き別の要望や観光と合わせた取り組みなど、現状把握をしっかりとした上で、現実に即した取り組みも進めていただきたい。 ・複線化の要望と合わせて、近隣市と連携したスケールメリットを生かし、より現実に即した活動(ダイヤ改正や増便、駅の整備等)や超高速鉄道の整備促進などの将来的な鉄道利用に関する活動に注力してもらいたい。 		
	三次評価 (外部) 【行革担当課記入】	所 見		
来年度方針	担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	内 容	
		<input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input type="checkbox"/> 他事業と統合し組替 <input type="checkbox"/> 予算縮減を伴う見直し <input type="checkbox"/> 予算増減のない見直し <input type="checkbox"/> 予算拡充を伴う見直し <input type="checkbox"/> 事業の見直しなし		
	予算への反映 【財政担当課記入】	予算額の反映状況(対H30)	担当課の見直し・要求方針に対する所見【行革担当課記入】	
		<input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 組替 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 廃止/休止 <input type="checkbox"/> 拡充		